

復習シート 第一学年 国語



| | | |
|---|----|----|
| 組 | 番号 | 名前 |
| | | |

【文章中の表現・描写から登場人物の様子を読み取る問題】

1 次は、泉さんが想像したことをもとにして書いてある【物語の一部】です。レベル7～9

続きの一文をどうするか泉さんは、鈴木さんから助言をもらい、その助言をもとに続きの一文を書きました。【二人の会話の様子】を読んで、泉さんが書いた、続きの一文として最もふさわしいものを、1から4の中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【物語の一部】

また、この時期がやってきた。体育の鉄棒の授業がある時期だ。来年に中学生になる誠は、何としてでも小学生のうちに、「逆上がり」ができるようになりたいと思っている。

「今日は、もしかしたらできるかもしれない。」学校が終わると、その日の夕方、誠は校庭にやってきた。周りを見渡し、自分以外に誰もいないのを確かめた。いつもの鉄棒は、昨日よりも明るく光って見えた。慎重に握る場所を決めて、鉄棒を握った。一回、二回と、体を鉄棒に近づけたり遠ざけたりしながらタイミングをとった。三回目、自分の体が鉄ぼうに近づくタイミングで、勢いよく地面をけり、足を振り上げた。誠は時間も忘れて、手のひらが痛くなるまで何度も挑戦した。しかし、今日も誠の体が一回転することはなかった。

【二人の会話の様子】

泉 この物語の続きの一文をどのように書こうか悩んでいるんだよね。主人公「誠」が「落ち込んでいる」という様子について表現したいんだけど、少し文学的にしたいっていいか……。

鈴木 なるほど。それなら、「誠」の行動や会話など、直接的な表現を使わない方がいいかもしれないね。

泉 それはいいね。直接「誠」の感情を言い表さなくても、読み手が「誠」の感情を想像できるような表現にするんだね。

鈴木 そうそう、授業でも触れられていた「暗示的な表現」。それを使ってみたらいいかもしれないね。

泉 「暗示的な表現」はいい考えだね。直接的に言い表さずに、行動や情景などを通して、相手にそのことを想像させるという表現だったね。続きの文は、「暗示的な表現」を取り入れて書いてみるよ。

1 目の前には、いつもどおりの冷たく黒い鉄の棒があるだけだった。

2 誠は、ピンク色の桜の葉が舞い落ちる中、家へと帰った。

3 「今日もダメだった。」まことは、小さな声でつぶやいた。

4 振り向くと、晴れ渡った空に真っ赤な夕日が輝いていた。